

見えにくさへの支援③

～保護者が支援するために、保護者を支援すること～

見えにくさの状態は人によってまちまちです。生まれつきの方もいれば、途中から急に見えなくなった人や病気で徐々に見えなくなった人など、個人差がとても大きいです。そのため、自分自身の見えにくさを受け止め、折り合いをつけていくことについても、人それぞれに違いがあります。

子どもの場合、大人以上に自分の見えにくさを理解したり受け入れたりするのは難しいものです。一見すると落ち着いているように見えても、実際はそうではないかもしれません。周囲に気を遣って、本当の気持ちを打ち明けられないこともあります。中学生頃になると、“自分とは何か”を今まで以上に考えたり、それによって思い悩んだりしやすい時期でもあります。見えにくさを抱えて、これからどうあるべきか、自分の心と折り合いをつけるには、とても長い時間がかかったり、深く思い悩んだりすることもあるでしょう。

そこで、本人が見えにくさを受け止めていけるようになるためには、身近な教員だけでなく、保護者のかかわりがとても重要です。とはいえ、保護者も子どもの将来への不安や、自分に何か原因があったのだろうかなど、簡単に子どもの状態を受容するとは言えないこともあります。

★盲学校のセンター的機能を活用する

盲学校の支援は、校内のみならず、地域で生活する見えにくさを抱えた子どもも対象であり、その保護者の相談にも応じています。ご家庭で工夫できることや学び方の工夫に関する情報提供など、保護者を支える役割も果たします。

地域で学んでいる見えにくさを抱えた子どもも含めて、中には、学校での友人関係や学習のしにくさだけでなく、自分自身の見えにくさに葛藤を感じている子どももいます。“どうして自分だけが・・・”という思いは、友達にも打ち明けにくいこともあり、保護者にやりきれなさをぶつけてしまうこともあるようです。

保護者も周囲に同様の悩みを抱えた人と会うことは少ないため、どのように子どもに接し、辛抱強く付き合っていけばよいのか悩みは尽きません。この悩みに対する答えは簡単ではありませんが、子どもと保護者を支える役割の一つとして、身近な担任だけでなく盲学校の教育相談を活用し、一緒に考えることができます。子どもの思いを十分に受け止めるに、保護者自身が十分に受け止めてもらったり、必要な情報の提供を受けたりできるとよいですね。盲学校のセンター的機能として、地域の学校で学ぶお子さんや保護者、そして担任の先生方からに対して、少しでもお役に立てるよう相談を受け付けていますので、ご連絡をお待ちしています。

